

野木小学校
同窓会報

第 23 号
平成 24 年 12 月
野木小学校同窓会編集部

元気な挨拶が

こだまする母校



第54回卒(昭和38年)
同窓会長(武生) 山田 儀一

同窓会員の皆様におかれましては、益々ご健勝にて活躍のこととお慶び申し上げます。本年もまた、記録的な炎暑、酷暑の夏であり各地で熱中症などの病気や事故が報道されておりました。昨年に続き近畿南部を中心に台風の豪雨による災害も発生いたしました。被害に遭われました方々には衷心よりお見舞い申し上げます。お陰様で故郷ではその様な事故もなく、平穏に過ごさせていただいております。

さて、母校は今、建設後四十数年を経過した校舎の耐震

みません。そんな工事もあって、例年秋に開催されている小学校の運動会と合同の地区体育大会、今年も六月に開催されました。入学間際の新一年生、体力は大丈夫か？との心配をよそに、上級生と共に全校による応援合戦、全校リレーや綱引き等、二ヶ月前まで保育所に通っていた子どもとは思えない成長ぶりに感動いたしました。また、民生児童委員をさせていただきます。毎月一回朝の挨拶運動で校門に立たせていただいておりますが、遠いところから「おはようございます。」の大きな声で登校する子ども達の元気な姿を見て、こちらも元気をもらっております。

今年も様々な年代、地域からご寄稿をいただき同窓会報を発行することができました。この会報を通じて会員同士の交流の場となればと願っております。改めてお礼申し上げます。経済情勢も一向に回復の兆しも見えず、東日本大震災の復旧すらままならず、暗い二

ユーสบばかりが先行する昨今ではありますが、今年も残すところ後わずかとなりました。インフルエンザの流行も危惧されており、会員の皆様には、どうか健康に留意され、元気で新しい年をお迎えになれることを願ってやみません。



野木小学校長 服部 成男

箱ヶ岳の山頂

にて思う

この秋、体協主催の箱ヶ岳登山に参加する機会を得ました。「箱ヶ岳に 青空に 太陽もえ・・・」と野木小学校の校歌に出てくるように、秋晴れのもと箱ヶ岳の山頂から遠くを一望することができました。西に小浜市街地はもとより、青葉山や丹後半島まで眺望でき、東は上中駅をはじめ熊川方面、三方との境をなす倉見峠を見ることができ、交通の要所であることを実感しました。

鎌倉時代から戦国時代にかけて三方向の交通の要(かなめ)のためか、山城が築かれ、武



旧職員からの便り

変わらぬ想い

(昭和40年度～44年度 職員)
(昭和57年度～62年度・平成7年度 職員)

左近初惠

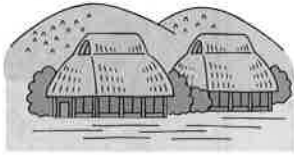
美味しいと競い合って食べてくれました。四年生の立派な体格の男子が部屋に入ると、二階の床が落ちないかと肝を冷やしたことも懐かしい思い出です。

赴任した初年度、野木小学校は福井県教育委員会の体育研究指定を受け、未熟ながら私も四年生の研究指定授業で

「走り幅跳び」を取り入れて行いました。県下各地より参加された先生方より、指導していただき良い研修の場となりました。体力向上のため、業間体育を昼休み後に設定し、全校あげてのマラソンに取り組みました。また、特別教育活動では、男女のソフトボールを放課後に行い。汗と泥にまみれながら、懸命に練習に励んでいた野木っ子の姿が浮かんできます。

活動を展開し、子ども達の自尊心も高く、今もその魂は変わることもなく脈々と受け継がれています。
当時、新米の私を温かく指導していただいた野木地区は、私の変わることのない大切な「心のふるさと」です。
末筆になりましたが、野木小学校・同窓会野木地区の皆様、ご益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

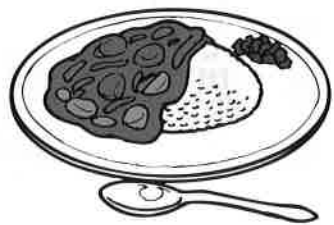
を見ながら、ふる里の山河に向かつて満足のいく生き方をしたい、納得のいく選択をしていってほしいと思います。今野木小学校の子どもたちは「輝きのある野木の子」を教育目標にして、自信の持てる子(知)、人を思いやる子(徳)、やる気に満ちた子(体)のバランスのとれた児童を育成しています。子どもたちが様々な学習の中で、自信を持ち、人を思いやる心身につけ、やる気に満ち、ふる里を愛し、ふる里と共に生きることを学んでほしいと願っています。



東西に真一文字に延びる県道を挟み、広々とした田畑が広がる野木の里。とりわけ菜の花が咲く季節には野辺の緑との美しいコントラストで辺りを包み込んでくれます。私が野木小学校で教員生活のスタートを切ったのはそんな菜の花が美しい季節でした。着任し、教員生活が始まると学生時代とは生活が一変し、衣食住すべてが独り立ちです。学校に最も近い武生集落の清水久兵衛さんの離れで生活させていただくことになりました。清水さんには大変お世話になりました。毎日のお風話になりました。毎日のお風呂も離れまでわざわざ出て来られ、声をかけて下さいました。学校の行き帰りには、集落のおばあさんが畑の中から、農作業の手を止めて私のよう

な新米教師に「お帰りなさい。」と笑顔で声をかけてくださり、その日の落ち込んだ気持ちや疲れを和らげてもらいました。また、離れの二階の部屋の先まで蛇の青大将が進入したときは、近所の山田さんが駆けつけて追っ払ってくださり、地域の方々には随分お世話になりました。日曜日になると、受け持ちの四年生の子ども達が遊びにやって来てくれました。時には、一度に十数名になることもありました。皆でわいわいと賑やかにカレー作りをして食べた思い出があります。ご飯は私の担当でしたが、何分にもまだまだ家事は苦手でご飯がめっこ(芯がのこる)になってしまいました。しかし、子ども達は私に気を遣ってか、

「文武両道」知・徳・体とバランスのとれた教育活動を推進し、情操教育の一環として鼓笛も町内でいち早く取り入れました。小学生としては、とても高度な演奏技術でレベルの高い素晴らしい演奏を行っていました。充実した教育



近況報告

(昭和63年度〜平成2年度 職員)
(平成15年度〜22年度 職員)

第54回卒(昭和38年) 森下博子

皆様にはご清栄のこととお慶び申し上げます。今回原稿依頼を賜り、お粗末ながらペンを取らせていただきました。野木小学校の印象に残ることナンバー1は「校歌」です。子どもたちの新鮮で大きな歌声が体育館に響き渡ると、素晴らしい野木の風景が脳裏に拡がり幸せな気持ちでいっぱいになりました。ナンバー2は「百周年記念式典」です。子ども達の作詞が記念の曲になった「さあ飛び立とう」の完成発表や地区の皆様との餅つき大会等、地区をあげてのお祝いは忘れられない思い出です。ナンバー3は「明るい素直な子ども達との数々の交流」です。遠足や校外での見学学習、地区民体育大会等本当に野木は今も大好きなところ

です。さて現在向かう所は畑しか有りません。そんな生活の中から少しばかり紹介します。春先は冬越しした野菜に花が咲きますがヒツクリ花は「人参」、中皿ほどの大ききでガーベラのように咲く白い花です。野沢菜の黄色い花も初めて見ました。見つけると楽しいものです。五月初旬に植えた薩摩芋「紅東」と「つくば小町」を毎日いただいております。今年はどこのお宅でも豊作との事で良かったです。五月下旬、やはりやって来ましたお猿さん。被害物はじやがいも三十株、玉ねぎ十個、えんどう豆五個、膨らんだ白桃四個。この時お百姓さんの残念な気持ちがあつたような気がしました。急いで鳥獣網をかぶせたのはよかつたの

ですが、じやがいもが網の隙間から精一杯顔を突き出し花を咲かせる姿、重い網を皆で持ち上げる葉っぱ達には頭が下がりました。何とか七月初旬には収穫にこぎつけ一段落したものです。

私の一日は襖をカリカリさせる音で目が覚めます。猫のリカです。外に連れ出し車庫の二階に寝ている猫トロと一緒に餌を与えた後、朝食準備をします。雨天以外は畑仕事ですが、二匹も付いてきてじやれ合ったり喧嘩したり仕事の邪魔をしたりします。疲れるとそれぞれ涼しい所を探して昼寝です。用心深いリカは必ず家に帰って寝ます。お互



い四時頃目覚めて餌をねだります。一番楽しみなことは夜の散歩、夕食後懐中電灯を片手に出掛けます。いつも決まった場所へ行くのですがきちんと付いて来るのはリカ、トロは鉄砲玉のようにいなくなつて探すことになります。そんな楽しみも九時まで、最後

の餌を食べると就寝です。トロはその事を悟つてかなかなか車庫に入ろうとしません。なだめて入れるのが一苦労ですが、うまくいくと私の一日が満足で終わることになります。最後に皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げます。

会員からの便り

拜啓 野木小学校旧校舍様

第52回卒(昭和36年)

天徳寺 田中 小百合

ぬらぬらとした川のそばに立つ、旧校舎の姿がなくなつてから久しくなります。お世話になつた多くの方々に感謝しながら、懐かしいあなたを尋ねてみましょう。

福田先生が、縄とびを持つてまわつて来られ、机のフタを直してくださつた。ここから小学校の記憶が始まります。一人だけ時計の読める子がいて、先生に言われるといつも走つて見に行っていました。思えばその頃、教室には時計がなかったのです。三年生になると二階の教室へ入りました。

昭和二十三年、福井大震災の年に生まれ、戦後物のないドサクサの中で何とか大きくしてもらいました。十三号台風のあと入学、野木村は上中町になりました。

高い窓から眺める景色は美しく、大きくなって得意顔でした。

後ろまで机が並んでいて、大所帯の私達は、上級教室に入ることが出来ず、六年生までここに暮らす事になったのです。

竹の子や松茸やと楽しい事満載の藤野先生、「こんな喧しい組は知らん」とチョークがとんだり、長いはし竹を持って来させたりして、相当ご苦労をおかけした次第です。向いは二部屋続きの大きな畳敷裁縫室（もしかして作法室かも）下敷や、ガラスにローソクで炭を塗って、日食を観る話をここで聞きました。平成二十四年に大いに役に立ちました。階下は音楽室。新しいグラランドピアノと加納先生をとり囲んで、よく歌いました。NHK合唱コンクールに初出場したのです。

青いタイトルの手洗い場が並んだ上に、水道のモーターがあつて、時々ウィーンと唸ったり、故障したりしていました。その横は昇降口で、休み時間に子どもが通るとカターンカターンとよく鳴っていました。そこを上ると、小さな売店があり、車のない時代必要な文房具を揃えるようになってい

ました。大きな講堂は、ちょっと薄暗かったけれど、居心地の良い空間でした。皆んな窓側にべちゃん座つて、おはじきをしたり、めんこをしたり、冬には、毬つき、チュープとび、毛取りも。それから変な遊びがありました。着ている物の毛を集めるのです。パッチの毛、セーターの毛、いろいろむしつて集めて丸くして、見せ合うのです。「わてら、こんな色やねー。ええやるー。」「わあ、おくれー。」キヤーキヤー言いながら、取り合いました。

野木小学校にはその頃校歌はありませんでした。元旦に登校して、背丈ほどの壺に松竹梅を入れ、先生方も晴着で、「年の始めのためしとてー」を歌ったのが、そのかわりのような気がします。「松竹ひつくり返して大きわざー、後の始末は誰がするー」と大声で元気に機嫌よく帰ったものです。そして坂廊下。りつばな鏡があつて、短いおかつば髪が私がいづものぞいていました。左側には、水槽があり、鯉や鮒、ドジョウ等周辺の魚

が泳いでいました。八ツ目ウナギという表示があつたので、いつも庭の方にいる細長い魚を探して眺めていました。魚スキに行つても、ザルカゴにかかった事はなく、「未知の生物」という印象です。「なんで八つも目が要るんやろ？」人生初の疑問でした。坂廊下には、世界地図があつて、ポタンを押せばランプがつく仕組み。その前にはほんとに小さな謄写版室があり、こてをした先生が、いつも印刷をしておられました。

角を曲がると図書室で、次々と楽しみました。そして、放送室、職員室、校長室、朝、校長先生をお迎えする玄関へと続く。向いは給食室（調理場）でおいしい給食と共に、海人草の匂いを思い出してしまいます。宿直室には、テレビがありました。大鵬、柏戸の時代、子どもたちは、先生にこっそり見せてもらったのです。

隣に入った事のない部屋があつて、次は保健室。体重測定は、いろんな意味で嫌でした。つきあたりは理科室。くなく

なしたガイコツが倒れそうに、箱に入っていました。この前で、一回考えたことがあります。体育が苦手で、逃げてばかりいるから、何か好きなこと、得意なことを見つけなアカン。そうや、花や草にしよう、自分で決めたのです。スズランを知っていると、うただけ。そして、花、動物好きは私と一緒に大きくなりました。少し細目の木の階段を上ると、六、五、四年教室が並ぶ。ここで

は秋になると毎年品評会が開かれ、選ばされた絵や書道、自慢の作物が展示されました。村中の人々がごぞつて学校に集まり、とても賑やかでした。この角に、小さな臨時郵便局もありました。そして、曲がり階段を降りると、長いお便所があり、坂廊下へと戻って来ます。男子も女子も先生方も使用する共同のトイレでした。これで校舎を一巡することができました。忘れていたところはないかしら。すつかり、十才の私に戻つて素足で学校を歩き回つた気がします。夏も冬も、毎日子どもたちが拭き掃除をし、いつも黒く

光つて、気持ちのよい校舎でした。五十数名。いろんな種をポケットに入れて、あなたのところを卒業しました。仕事をしながら、家庭にあつて、どんな種が育つたでしょう。どんな花が咲いたのかしら。あなたに育まれたことを今、大切に思います。

野木小学校旧校舎に感謝の一献。



ふるさとには近きにありて想うもの

第63回卒(昭和47年)

小浜市 森田 稔

野木小学校卒業後あつとい
う間に四十年が過ぎ、私も五
十二才となりました。

小学校当時、私達、杉山児
童は一年から三年生迄は、堤
にあった分校に通ってました。
登下校共に誘い合い皆でわい
わいガヤガヤの毎日でした。
冬場になると朝の田んぼの
雪が、カチカチに凍りついて
いて、カップズボンで滑りな
がら楽しく登校してました。

帰り道は、寄り道ばかりで、
桑の実で顔中紫色に染まる位
食べたり、野鳥を追いかけたり、
小さい川でしたが魚を取ったり、
稲刈り後の田んぼでは、先輩
達と走り高跳びをしたり(切
り株が体に刺さり痛かったア
ー)など、登下校は、遊び一
色でした。

現代では、人っ子一人田ん
ぼなどで遊んでいる子供を見
かけません。時代の流れでし
ようが、何か寂しい気持ちか
します。

四年生からは、本校(野木
小学校)へ、堤からバス通学
してました。初めは、すご
く都会の学校へ来たようで、
戸惑いと不安が入り交じって、
なかなか馴染めなかつた事を、
記憶してます。分校は、私達
が本校に通い出した頃、廃校
となりましたが、分校のシン
ボルだった二本の銀杏の木は



今でも頑張つて立っています。

本校三年間の生活の中で、
一番脳裏に残っているのは、
本田先生です。見るからに恐
い男先生で、きつく怒られた
ことがあります。それは、都
会方面から転校生が来た折、
私たちが男友達四人程で、悪さ
をした時です。

現在では「いじめ」となる
のでしょうか。そのことが先
生に伝わり、クラスメイトの
前で並ばされ、「一人で見知
らぬ土地へ転校してきた子を
仲良くしてあげて当たり前な
のに、四人で悪さするとは何
事だ。」と平手打ちされ、ひど
く叱られました。本田先生は、
恐い面も有りましたが、反面
友達に対する優しき、大切さ
を沢山教えてもらいました。

最近、いじめ問題が、エス
カレートして、社会問題とま
でなっています。私が思うに、
学校生活の中での良きリーダ
ーが、私達の頃は、担任の先
生だったと思います。そのリ
ーダーが、今は学校での様々
な問題の為に、力が発揮出来
なくなっている様に思います。
教育現場の方針が、平穩無

事主義では無く、私達の頃の
様に、悪戦苦闘型に戻れば、
いじめ問題も少しは減る様な
気がします。

話題は変わりましたが、私、
上中から小浜へ、竹村から森
田の姓へ変わりました。早三
十年が過ぎようとしています。
仕事は建築業の為、独立した折、
工場建設地を迷わず、上中杉
山に建てようと決めました。
親戚の土地をお借りして、平
成十二年に、仕事での城を建
てる事が出来ました。環境も、
子供の頃とはすごく変わり、
工業団地もでき、奥杉山まで

五才の次男をののな保育
園に朝送って行く時に、野木
小学校のそばを通ります。現
在の校舎の北側、以前講堂が
あった辺りは今、住宅地とな
っていて、各々個性的な家が
建ち並び道幅も広いので、い
つもこの道を使います。小学

の道も整備され幅広い、便利
な所となりました。

杉山には、昔変わらぬ山々
の緑はもとより、気さくに相
談事の出来る幼馴染や、頼り
になる先輩達、よく遊んだ分
校仲間達が居て、何かしら気
持ちは安らぎ、素直にいられて、
尚かつ、活気が沸いてくる場
所なのです。私の中では「ふ
るさととは、近きにありて想う
もの」今後も、小学校の頃の
様に、好奇心旺盛に、変わら
ぬ杉山のように、自然体で、こ
れからも頑張つて行きたいと
思います。

一枚の絵

第67回卒(昭和51年)

兼田 丸井勝己

校は今、耐震補強工事の真っ
最中で工事車両が何台も停ま
っており、車好きの次男坊は
大喜びです。早く出来上ら
ないかなと私も次男も楽しみ
にしています。

現在の野木小学校の校舎は、
私たちがちょうど新一年生で

入学する時に出来上がった建物です。体育館やプールは在学中にはまだ無く、昔の木造の講堂を渡り廊下で新校舎とつないでありました。その廊下の途中に見童玄関があつて、そのすぐ隣に図工室がありました。私はこの図工室が好きでした。大きな木製のテーブルがいくつもあつて、絵の具やら粘土やらが入り混じつた独特の臭いがしていたのを今でも覚えています。

一年生か二年生の時だつたと思いますが、図工を松宮昂先生に習いました。先生はいつもニコニコとされていて、私たち二十人は自分たちの好きなように絵を描いていました。テーマもいつも自由で、みんな何を描こうか悩んでいました。私は小さい頃は病弱で放課後一人遊ぶことが多くて、よく虫と遊んでいました。とりわけアリの眺めているのが好きで、日が暮れるまでアリの行列を見ていました。そこで、大好きなアリの絵を描こうと思い、以前小学校の図書室で読んだ図鑑の絵を必死で思い出しながら、アリの巣の絵を一生懸命

に描きました。やっと出来上がり、松宮先生に見てもらうと、「ほおう、地面の下まで描いたんか？見えんところまでよう描けとるのう。」と言つて大変ほめて下さいました。

小学生の私はとてもうれしくなつて、その日から学校へ行くのが楽しくなりました。それまでの私は、身体が弱くて体育もほとんど見学で、かけっこも医者から止められていたので、皆んなと鬼ごっことかで思い切り走り回ることができなくて、学校へ行つても楽しくなかつたのです。自分の描いた絵が先生にほめられて図工室の壁の一番上に飾つてもらえたのですごくうれしくなつて、体育できんでもいい、毎日学校に行きたいと思うようになりまして。

今、三人の子どもに恵まれた親として、ほめるといふこととの大切さ、難しさをしみじみと感じています。しかるのはいつでも誰でもできます。でも、ほめるのはその子をちゃんと見ていないとできません。普段から子どもをのこを観察していないと、いったい何を

ほめていいのかわからないのです。よく見ることが大切で、何よりいつも君を見ているんだよという安心感を抱かせるのが大事だと思います。

小学校低学年の時に松宮先生にほめてもらえたことで、私はずいぶん救われました。図工の時間に描いた一枚の絵で、私は学校を嫌いにならずに済んだのです。もう今はありませんが、あの時の図工室、あの図工の時間というのは私の一生の思い出です。

今年の一月にたまたま通りがかつた展示会がきっかけとなつて、私は松宮昂先生の絵画教室に通うようになりました。四十年の歳月が過ぎて、再び先生と生徒です。松宮先生は相変わらずニコニコしていらつしやいます。テーマも自由で、サークルの皆さんは各々悩んでおられます。この様な人との出会いを大切に、そしていつまでも忘れない様に、これからも生きていこうと思います。

私は高校卒業後、大学進学のため野木を離れました。大卒後、大阪で歯科技師として七年間働いておりました。そして今年四月、十二年ぶりにこちらに戻ってきました。現在は父の後を継ぐ形で、実家が歯科技師をしております。私が歯科技師を職業として選んだのは、いつか地元に戻つても続けられるという理由からでした。



二十年前のあの試合

第84回卒(平成5年)

武生 桑原 浩幸

私は四年生から少年野球のチームに入っていました。五年生になると初めて試合に出場させてもらいましたが、緊張しっぱなしで、初打席ではいつの間にか、自分でも分からないうちに空振り三振。守備で初めてボールが飛んでくればトンネル。その試合の記憶はそれ以外ありません。

もう一つ、特に強く印象に残っている試合があります。それは県大会予選で、私がきよならホームインをして勝つた試合でした。しかし、鮮明に憶えているのはその前のプレーです。二塁ランナーだった私は二、三塁間に挟まれてしまいました。「しまった。」と思つた次の瞬間、体をひねりながら三塁へヘッドスライディング。完全にアウトのタイミングでしたが、うまくタッチをかわすことができました。

私の家は野木小学校のすぐ近くです。朝仕事をしていると、登校する児童の「おはようございます。」という元気な声を聞くことができ、車で小学校の横を通れば、グラウンドで少年野球やサッカーの練習をしているのを見かけます。こういった光景を見ると当時のことを思い出さることができます。

無意識でしたがもちろん冷や汗をかくプレーでした。アウトになり試合に負けていれば、きつと今でも悔しい思いを持つていたことでしょう。試合後はみんなで声を上げて喜び合ったことを憶えています。

合わせて、チームで試合に勝つ喜びを感じる事ができたのは、この少年野球でした。私には娘が一人います。彼女も数年後には野木小学校へ通うことになりませんが、私と同じように、ずっと記憶に残る思い出をたくさん作ることでしよう。楽しいこと、辛いこと、いろんな経験をして成長していつてほしいと思います。

小学校の思い出

第87回卒(平成8年)

兼田 河原裕司

野木小学校を卒業して十七年が経ちました。今回原稿の依頼をいただき、振り返ってみると、これだけ月日が経過していても様々な思い出が蘇ってきます。

年の時に父親の勧めで、それまでは特に興味の無かった野球を始めました。練習が野木のグラウンドで行われており、同級生は全員野球を始めました。特に興味は無かったものの、父親からの勧め、また同級生が皆入部するからということでも私も始めました。そのような動機で始めたこともあり、四年生のうちは練習をズル休みする等あまり野球に興味を持ってませんでした。そんな気

運動会、音楽会等の行事、お世話になった先生方、九人という少人数であったが仲の良かった同級生等、たくさん思い出があります。その中で特に思い出に残っているのが、「少年野球」です。小学校四

持ちで何となく野球を続けていき、五年生になり、ある日の練習試合で私は一本のホームランを打ちました。それがきっかけとなったかどうかは今でも分かりませんが、その頃から野球に前向きに取り組みむようになっていきました。そして不思議なこと何となく始めた野球を、その後中学校、高校と続けていくこととなったのです。私の野球人生には特に皆様に自慢できるような輝かしい成績はありません。しかし、小学校、中学校、高校と必死になって白球を追いかけ、野球に打ち込んだことと、野球を通じて素晴らしい仲間と出会えたことは誇りに思っています。

現在私は地元企業、小浜信用金庫に入庫し六年目になります。そして今でも私は野球を続けており、自分でプレーを楽しむ一方で、あるきっかけからお世話になった「少年野球」のコーチをしております。今は練習にほとんど参加できておりませんが、二、三年前は毎週土日に野木小学校のグラウンドに足を運び、子ども達

と汗を流していました。平日仕事をし、土日は少年野球の指導とハードではありましたが、続けられたのは、やっぱり野球が好きだったからだと思います。小学校四年生の時には、まさか自分が指導者として野木小学校のグラウンドに帰ってくるとは想像もできませんでしたが、あの時野球を始めて、そして続けてきて本当に良かったと思っております。

変わったこと、変わらないこと

第90回卒(平成11年)

下野木 倉谷貴行



最近テレビでは学校での「いじめ」問題がクローズアップされておりありますが、何かに打

私自身もこの野木も、色々と変わってきていると実感しました。自分のこと言うならば、京都での一人暮らしで野木以外の地での生活を経験したり、車やバイクの免許を取ったりし、行動範囲が格段に広がりましたが、小学生の時に比べ運動

今回この同窓会誌の原稿を書くために思い返してみると、

たが、小学生の時に比べ運動

した。昔は片道三、五キロの通学路を六年間歩いて通い、休み時間も体育館やグラウンドでバスケットやサッカーをして、とても健康的な生活を送っていたんだと、今の日々の過ごし方と見比べています。

野木地区の中でも、私の行っていた野木保育所は、野菜即売所のために、野菜に変わってしまいました。また、小学校のグラウンドでは、少年野球だけではなく少年サッカーの練習をしている姿を見かけるようになり、会社の帰りに練習風景を見かけると、私の小学校の時にサッカーがスポーツ少年団にあつたなら、やりたかつたなあと思ひ、今の小学生がうらやましく見えることがあります。そして、私の中で一番大きく変わってしまった事といえば、耐震補強のために小学校が改築していることです。やっぱり、いろいろな思い出のある校舎が変わってしまうのは、少し寂しくもあります。東日本大震災の映像を見ると、補強工事も大切で必要なことだと思っています。



建物や風景は少しずつ変わって来いますが、人と人のつながりは、今も昔もあまり変わっていないように感じます。京都で一人暮らしをしていた頃は、戸締りにはとても気を付けていましたが、野木に帰ってきてからは、鍵をかけるに出かけても、あまり気にせずいられるのは、近所どうしでの付き合いがしっかりしていて、そういったところが防犯につながっているんだと思います。そして、下野木の保育所に入る前からの友達とは、社会人になった今でも、昔のようにみんなで集まって遊ぶのは変わらないと思ひます。これからも、そんな仲間達と楽しく年をとっていききたいです。

ふるさとを離れて

第95回卒(平成16年)

玉置 奥本 甚岳

新潟県の小学校で教育実習をしながら子どもたちの姿を見て、自分が小学生だった頃を懐かしく思っているときに、同窓会会報の原稿を書かせていただくことになりました。

自分のことは自分でできると思いながら実家を出てみて、実際にできることの少なさと知識の乏しさを実感し、改めて家族の大切さ、有難さを思い返すことができました。

私は現在新潟県で大学生生活を送っています。一人暮らしや今までと違った環境での生活に最初は戸惑いもありましたが、朝昼晩と毎日ご飯の用意をしたり掃除に洗濯、また部活動への送り迎えなど、今まで当たり前のようにしてきたことも、今でも思ひます。野木を離れ三年が経った今では、そういった当たり前のことを自分当たり前にするということも生活にも慣れてきました。そう思うと、今こうしてふるさとの野木を離れて生活をするには自分にとって本当にいい経験だと感じています。

また、現在の環境の良さを

感じるとともに、今まで育ってきた野木の良さに気づかされたことが多くあります。自然が多い豊かなところや新鮮な食べ物があったり、いろいろな良さがあると思ひますが、私はその中でも地域の人があたたかいということや強く感じています。野木に帰ってくると、近所の人だけでなく多くの人と挨拶を交わし、些細なことでも会話がはずみます。今の自分の生活を心配して下さったり、草野球やイベントに誘っていただいたり、地区のお祭りでは、今でも変わらず子どもたちが楽しみ、

それを支えている大人の姿があり、野木は人と人がつながっていて本当にいいところだと思ひます。何もなかったころと比べていた時もありましたが、そこには人間的な豊かさがあり、何気ない日常の中に幸せがふれているのだと思ひます。久しぶりに同級生とあつた時に、「やっぱり地元に住みたい」「地元で仕事がしたい」という声を聞くのも、そういった良さがあるからだと思ひます。野木に帰ると、休日は野木のグラウンドで、声を張り上げて野球をしていたことや登下校の時には、そばを流れる川に木や葉っぱを流し、毎日競争していたことを思ひ出します。生まれてから二十年間過ごしてきた思い出がそこには詰まっています。これからどんどん増えていくでしょう。そのような思い出に溢れた野木というふるさとがあるということ、今度自分がふるさとのために貢献していけるよう努力したいと思ひます。

新成人からの便り

大人になつたと感じるころ

第96回卒(平成17年)

杉山 橋本 充生

私は今、加賀百万石の城下町、

金沢で大学生活を送っている。山を切り拓いて創られたキャンパスは広々としていて様々な学類が点在し、移動には自転車が必要となっている。自然豊かな野木の里で育った私は、大学を選ぶ際にも、気がつくど落ち着いた風情の緑あふれるキャンパスを選んでいた。

私はここで、小さい頃から希望だった教育学を専攻している。大学二年生になって、少しずつ専門的な授業が増えてきて、毎日がとても楽しい。授業のサポートとして小学校に赴いたり、介護体験として福祉施設に行ったりと、当初は不安を感じることも、実際にやってみると、大変やりがいを感じている。もともと人と触れ合うことが好きなタイプであったが、今の進路を

決める上で、大きな転機となったのは、中学校時代の職場体験であった。中二の秋の三日間、私は野木小学校で職場体験することになった。今思えば、中学生が小学校に来たところで、先生方もかえって困られたのではないかと思うが、当時の先生方には温かく受け入れていただき、上野明穂さんと私は、授業を見学させていただいたり、体育の授業に参加させてもらったり、教頭先生と草むしりをしたりと楽しい三日間を過ごさせていだいた。そんな中で私は小学生と一緒に学ぶということ、そして先生方が子どもたちに導いておられる姿に接し、自分も将来こうなりたい、こうなれたらいいと思うようになった。その思いは高校に進ん

でもからも変わらず、こうして今、少しずつその夢に向かって階段を上がっているところだ。現実的には大変なことも多いと思うが、私に夢を与えてくれた野木小学校に感謝しつつ、いつの日か、母校野木小学校で子ども達と学び合えたら……

と思っている。野木小学校の思い出といえば、体育大会や修学旅行、六送会などが思い起こされる。倉谷勇司君、植野太陽君、福田雅也君。彼らの応援団長ぶりはとても勇ましかった。修学旅行は京都・奈良・大阪方面。大仏に金閣寺、奥本拓也君、北浦大樹君と待ち時間無しでアトラクション乗り放題だった。

たUSJも楽しい思い出だ。判別行動では清水一人君、中村美里さんと大阪城に行った。おかげで今でも歴史好きである。四年生の時の六送会では、「サザエさん」当日、欠席者のピンチヒッターで担任の桑原先生が出演。一人だけ妙に大きくて面白かった。まさに校歌にあるように「学んで楽しい野木の里」だった。

今、私の実家では、ずっと野木小学校に保管されていた梅干を預かっている。私たちが総合の時間で漬けた梅干を、少し前に「成人式の時

にみんなで食べてください」といただいたものだ。十七人そろったら、食べようと思っっている。味はどうあれ、皆で思い出に浸ることができそうで今から楽しみだ。



小学校での思い出

第96回卒(平成17年)

玉置 山本 阿矢

今県外の大学に通っています。それほど都会でもなく、山も田んぼもあって落ち着いた場所ですが、休みに地元に戻ってきて地元の風景を見るとすごく落ち着きます。自然がいっぱいですが、やっぱり一番落ち

着く場所であり、昔から見えていた景色なので帰ってくるとほっとします。大学に入って友達もたくさんできて、いろんな人の話を聞いてみると、やっぱり小学校の時の人数は少なかったということを実感します。しかし、



少ないからこそみんなと仲良くできたし、思い出もたくさん作ることができたのではないかと思います。

小学校のころの思い出はたくさんありますが、特に思い出に残っていることは修学旅行で大阪に行ったことです。自分たちでどこへ行くか、どうやってそこへ行くかの計画を立てて行動しました。初めてあれだけ多くの人が乗った電車に乗り、看板を見ながら次はどこへ行けばいいのかわかりません。また、この修学旅行で初めて船にも乗りました。自分たちだけであれだけ広い範囲を行動したこともなかったし、初めて経験することは、初めてだったのでとても印象に残っています。

また、六年生の時の運動会も印象に残っています。特に応援の準備についてよく覚えていて、自分たちが最高学年であり、応援の曲選びから振付まで全部自分たちで考えました。それまでは言われたことをやるだけでしたが、最初から自分たちで作っていた

なければいけないので、どのように動くか、どんな振付にするかというのを友達の家に集まり考え、準備を進めていきました。下の学年を動かさなければならず大変でしたが、本番でもみんながしっかりと動いてくれて成功させることができました。その他にもずっと練習してきたことがうまくいったりして、運動会がすごく楽しかったことを覚えていきます。

他にも、周りに田んぼがあるからこそ経験できる田植え体験や三世代交流、遠足などを始めると小学校時代のことをたくさん思い出します。六年間で様々なことがありましたが、今考えると楽しかったです。友達は高校から離れてしまったり人もいるし、大学に入ったりに離れて会う機会も少なくなってしまうんですが、夏休みや春休みに帰るとたまに一緒に遊んだりしています。なかなかみんなに会うことはできないですが、これからのこの関係を大切にしていききたいと思います。

児童作文(家庭の目作文)

汗をかいた一日

六年 奥本純子(玉置)

八月十七日、わたしは朝六

時に起きてラジオ体操に行きました。六時四十五分に家に帰ってくると、植木ばちに水やりをしました。今日も暑い

ので、「打ち水」をすると涼しくなるかもしれないと思い、水をまきました。すると、風が吹いて涼しさを感じました。わたしはうれしくなって、朝ご飯を準備して、みんなで食べました。

食べ終わった後、わたしは、「今日は、お母さんの手伝いを一日中するし、何でも言っ

てな。」と言いました。すると、お母さんが、

「じゃあ、さっそく食器を洗ってもらおうかな。今日は長い一日になるよ。」と言いました。わたしは、「うん、わかった。」

と言いました。

次は洗たくでした。洗たく機にみんなの服や下着を入れて、スイッチを押せば自動で動きます。わたしは、

「昔の人は洗たくを手でしてたな。今みたいに洗たく機はないから、大変だったやろな。」

と考えていました。洗たくが終わるまで、宿題をしていました。

「ピッピー。」洗たく物が洗えたので取り出すと、洗剤のいい香りがしてきました。

「パッパ。」と、上下に勢いよくはたいて、

「パンパンパン。」と、しわをのばして干します。干し終わった後は、そうじです。すみずみまでそうじ機をかけました。そうじが終わ

ったので、わたしはおばあちゃんに、

「耳そうじしよか。」

と聞くと、

「してもらおうかな。」

と言ってくれました。

「純子は、上手にしてくれるし、気持ちがあえななあ。」

と言ってくれました。とてもうれしかったので、またしてあげようと思いました。

午後は、夕食作りです。メニューはカレーです。わたしの担当は、野菜を切ることです。「うまく切れてるな。」

と、お父さんに言ってもらえてうれしかったです。

「今日は、助かった。ありがとう。つかれたやろ。」

とお母さんが言ってくれました。毎日このような仕事をしてく

れているお母さんに、わたしは、「ありがとう。」

という気持ちでいっぱいになりました。そして、また手伝えることをしていこうと思いました。



ぼくの二人の弟

五年 井畑晴人(玉置)

ぼくには弟が二人います。

二才年下の結人と九才年下の貴人です。お父さんとお母さんの話では、ぼくは結人が産まれた時にはすぐよるこんでいたそうです。そして、保育園のころから今まで、結人とはとても仲良く遊んできました。引っこしてきたころは、近所の人に「そっくりやなあ。」とよく言われてきました。親からは「こんな仲のいい兄弟はおらんやろうな。」と言われたこともありました。ぼくの部屋も結人と一緒に整理と改ぞうをしました。

でも、結人とは、時々ちょっとのことではけんかします。でも、やっている途中に、いつも何でけんかをしたのかを忘れてしまっていて、すぐに何事もなかったように仲直りしています。

また、ぼくは結人といっし

よにサッカーをやっているので、試合で自分のチームが負けた時に結人のチームが勝つたとき聞いた時はくやししいし、結人が点を取ったと聞いた時もうやしいです。でも、そのおかげで、兄だから弟よりも多く勝ちたいと思つて試合をするので、強い気持ちで試合に向かうことができた日もありました。だから、その面では結人には感謝しています。

そして、ぼくは、貴人は成長しているなと思います。産まれたばかりの貴人は頭にやわらかい所があつて、頭の後ろがぼっこりふくらんでいて、思ったより重くてほかほかかして、抱っこした時は落とすかしてしまわないか心配でした。ねむっている時はますますかわいかったです。家に帰つて来たころは、首がすわつていなくて部屋のすみをよく見て

いました。今は、二才で、いろいろなことを話します。例えば、電車のレールのことをまぢがえて「メール」と言ったり、いまだに意味の分からない「わうい」などと言つたりすることもありますが、今までよりもはつきりとしてやべるようになりました。そして、貴人がぼくに「これやつて。」と言つてくる時は、いっしょに遊んでほしい時と分かるようにもなりました。だんだん貴人のしゃべることの意味がよく分かるようになってきます。そして、貴人も、ぼくの言葉を分かつていて、ちゃんと聞いて行動してくれようになりました。ぼくの言葉を理解していると分かつた時、意思のそつうは大切だと思ひました。

ぼくは、おばあちゃんに「二人の弟の面どうを見れてすごいな。」とほめられてうれしかったです。うれしかった感情の後、ぼくは二人の弟をばくも育てているんだと思ひました。それでぼくは、これからも弟たちを大切に育てて守つていきたいと思ひます。

おばあちゃんいつもありがと

四年 東山結香(兼田)

わたしが、学校から帰ると、いそがしいのに家で待つていてくれます。

お父さんやお母さんが、仕事でいなくても、「おかえり。」と、やさしく言つてくれるのでうれしいです。たまに、いない時もあります。その時は、きまつて手紙を置いといてくれるので、あまりさびしくありません。

お母さんの帰りがおそい時は、おばあちゃんが料理を作つてくれます。それは、とつてもおいしいです。ハンバーグやちらしずしを作つてくれます。ひな祭りに作つたちらしずしの上にかけるたまごは、細くきつてあつておいしいし、いろいろな具が入つています。具はどれもおいしくて、わたしはおばあちゃんのちらしずしが大好きです。

おばあちゃんはおそい時は、わたしが大好きです。たくさんうれしいです。スイカはまだだけど、はやくとれないかなと待ち遠しいです。

おばあちゃんは、ハウスで花を作っています。どの花もきれいで、夏は四時に起きて、花を切つてたばにしていきます。色もバランスよくたばにしていて、とてもきれいです。わたしも、おばあちゃんみたいなたばにして作つてみたいです。おばあちゃんは、野菜も作っています。スイカや枝豆、ナス、トマト、いろいろ作っています。どの野菜もおいしいです。トマトや枝豆は、わたしが大好きです。たくさんとれていっぱい食べれるからうれしいです。スイカはまだだけど、はやくとれないかなと待ち遠しいです。

朝の八時三十分くらいになると、「たいしたもんや」や「ふれあい市場」、「Aコープ」にお花を出しに行きます。いろいろな所に出しに行かなければならないし、運ぶのも重しいし、

毎日たいへんそうです。それでもがんばって運んでいるおばあちゃんが、すごいなあと思います。

夏休みのお昼は、おばあちゃんががんばって作ってくれます。わたしの分だけでなく、今年から、弟もいるので、去年よりいっぱい作らなければいけません。大変だけどがんばっておいしいご飯を作ってくれるのでうれしいです。

弟の夏休みの宿題もみてくれます。できるまで見てあげているので、たいへんそうですけどすごいなあと思います。

午後、友達の家遊びに行つて帰ってきたら、花びんの花が新しくなっていました。

わたしがいない間も、休まず、いそがしいことがわかつて、たいへんだなあと思いました。

土曜日の夜は、習字を習っています。筆や半紙がないと、その日までに買ってくれるので助かります。また、習字を習うところまで送ってくれます。書いた字を見せると、「じょうずだね。」といつてくれるのでうれしいです。

毎日毎日、おばあちゃんは

いそがしいのに、わたしたちのことやみんなのことを気にかけてくれるので、助かります。今までやさしくしてくれてありがとう。これからも、ずっとと長生きしてください。そして、まだまだ元気でがんばってください。

太こつてなんてたのしいんだろ

三年 清水花すみ (上野木)



わたしは、今年の三月から、おばあちゃん、お母さんといつしよに太この練習をさせてもらうことになりました。

野木くれない太このリーダーはおばあちゃん、みんなにやさしく教えてくれています。

お母さんは、だいぶコツをつかんでいるみたいです。わけは、おばあちゃんから「上手」つて言われているからです。お父さんは、太こをはこんだり

おうえんしたりしてくれています。妹は、とちゅうで太この友だちと遊びながらも、かすみ太こを練習しています。

わたしは、今年三月から、自まんずきなおじいちゃん、

「し水家三代太こなんやで」と言つて、太このようすをビデオにとつてくれます。

曲は三つあつて、「かすみ太こ」「めおと太こ」「きざし」です。わたしは、さいしょに

「かすみ太こ」を練習しました。おぼえるのは大へんでした。でもなんとかけいろいろ会に間に合つて、はじめてみんなの前で発表できました。とても

さんちようしました。わたしたちのほかにもメンバーの方はたくさんいます。わたしは、チームワークが大

切なんだなあとあらためて知ることができました。それからまたしばらくして、二回目の発表がありました。今ではパレアわかきの音楽ホールで発表しました。この時も、「かすみ太こ」をしました。二回目で、少しなれていました。わたしは、三曲のうち一曲しかたたけなかつたので、もつとほかの曲もたたいてみたいと思いました。

さいきん、「めおと太こ」がだいぶたたけるようになり



わたしの大好きなおとうさん

二年 北村ゆきの (下野木)

わたしのおとうさんは、とつてもやさしいです。そして、いつしよにいとたのしいです。なせかと言うと、なんでもなおしてくれたり、毎朝、学校に行くときにラジオ体操をしようつてさそつてくれたり、じてん車でさんぽに行こうとさそつてくれたりします。

一ばんたのしかつたのは、

ました。わたしもお母さんやおばあちゃんみたいに上手になりたいので、いっぱい練習して、大きい太こでたたきたいです。今では「めおと太こ」もたたかせてもらえるのでつと楽しみです。わたしは今、こう思っています。

「太こつてなんて楽しいんだろ。」

おぼんのこと

一年 東 詩織 (中野木)

だったので、はたけの中に入りたくまりました。じつさいに入ってみたら、ひまわりはわたしの目の高さでした。近くで見たら、ひまわりが、「おはよう。」

と言ってくれているみたいで、元気になりました。

三回目に行ったときは、ひまわりが、「こんにちは。」

と言っているように、おじぎをしていました。どうしてか

おとうさんに聞いてみたら、「ひまわりは、たいようの方にむくんだよ。」

と教えてくれました。その日は、夕方に行ったので、おじぎしているんだなあと思いました。

おとうさんとさんぽに行くと、いろいろなことを教えてくれたり、

あたらしいはつけんがあつたりするので、とつてもたのしいです。これからおとうさんと

いろいろなところに行ってみみたいです。

おぼんがちかくなると、おぼんが私たちを、ばたばたしていきそうです。だからわたしも、ちよつと手つだいました。

まずしたことは、おほかのそうじです。おほかにくさはえないように、じやりの下にシートをはりました。わたしは、じやりのいれかえを手つだいました。とてもあつくてえらかったです。でも、ちやんとできてよかったです。

だんごづくりも手つだいました。ほとけさまにおそなえするだんごです。だんごを手でまるめました。くるくると、そばくなりました。だんごはじょうずにできました。とてもおいしそうにできました。あじみをしてみたら、とてもおいしかったです。いえのおぶつだんも、きれいなしきも

のがひかれていました。とてもきらきらひかつてきれいでした。くだものや、やさいをいっぱいおそなえしました。まんじゅうがいっぱいでした。いろいろかざつてきれいでした。はなもきれいでした。おぼんになると、ごせんぞさまがかえつてくるとおもいました。ひいじいちゃんや、ひいばあちゃんもかえつてくるのかなとおもいました。それから、おしょうさんがいえにきて、おきょうをよんでくれました。ひいじいちゃんや、ひいばあちゃんが、きもちよきそつだなどおもいました。十四日のあさ六じくらいにかぞくみんなでおほかまにいききました。大雨がふつていました。かさをさしていてもぬれてしまいました。おほかをまいるのが、とつてもたいへんでした。ごせんぞさまは、



雨にぬれてさむくないのかなとおもいました。おぼんのおほかまのときに、雨がふつたことはない、おとながいつていました。きつと、ごせんぞさまは、かぞくみんなできてくれてうれしすぎたのかなとおもいました。



小学校へ 寄贈

耐震補強・リフレツシュ改修工事にとともに、同窓会で次の物を小学校へ寄贈いたしました。



● 来客用スリッパ二百足



● 来客用応接セット



● 掘り抜きポンプ一式

工事終了後の野木小学校



グラウンドからの全景



玄関が西側に移動しリフレッシュ



玉置側からの全景



児童玄関ホールはすっきりと



教室もクリーンに改修



耐震ブレースでがっちり補強



図書室も明るく変身

野木小学校では、今年春より、耐震補強・リフレッシュ改修工事が行われ、十二月末には完成の予定です。各階、二つの教室にブレース（補強用の鉄骨）が埋め込まれ、大震災にも耐えられる構造となります。また、雨や砂が吹き込む窓サッシが全面新装され、校舎内の天井、壁や床も改修されます。是非、学校へ足をお運び下さい。さて、原稿執筆をお願いいたしました皆様方には、ご多忙の中、快くお引き受けいただきましてありがとうございます。お陰をもちまして、充実した内容の会報に仕上がりました。編集委員一同、衷心より感謝申し上げます。会員の皆様におかれましては、今後とも、近況などを投稿いただければ有り難く存じます。末筆ながら、会員の皆様の益々のご健康とご繁栄をお祈り申し上げます。



編集後記